



高砂香料工業株式会社

証券コード：4914

2019年3月期 第2四半期（上期）
決算説明会

2018年11月19日

目次



I . 2019年3月期 上期業績

II . 2019年3月期 通期業績予想

III . トピックス

- ◆ メントール
- ◆ 東南・南アジアでの事業展開



I . 2019年3月期 上期業績



2019年3月期 上期業績

[単位：億円]

	2018/3 上期業績	2019/3 上期業績	前期比	為替影響除く 前期比
売上高	715	769	+7.5%	+7.1%
売上総利益 売上総利益率	230 32.1%	242 31.4%	+5.3% △0.7P	— —
販売管理費	193	199	+3.4%	—
営業利益 営業利益率	37 5.1%	42 5.5%	+15.4% +0.4P	+13.5% —
当期純利益	35	42	+21.7%	—

期中平均為替レート

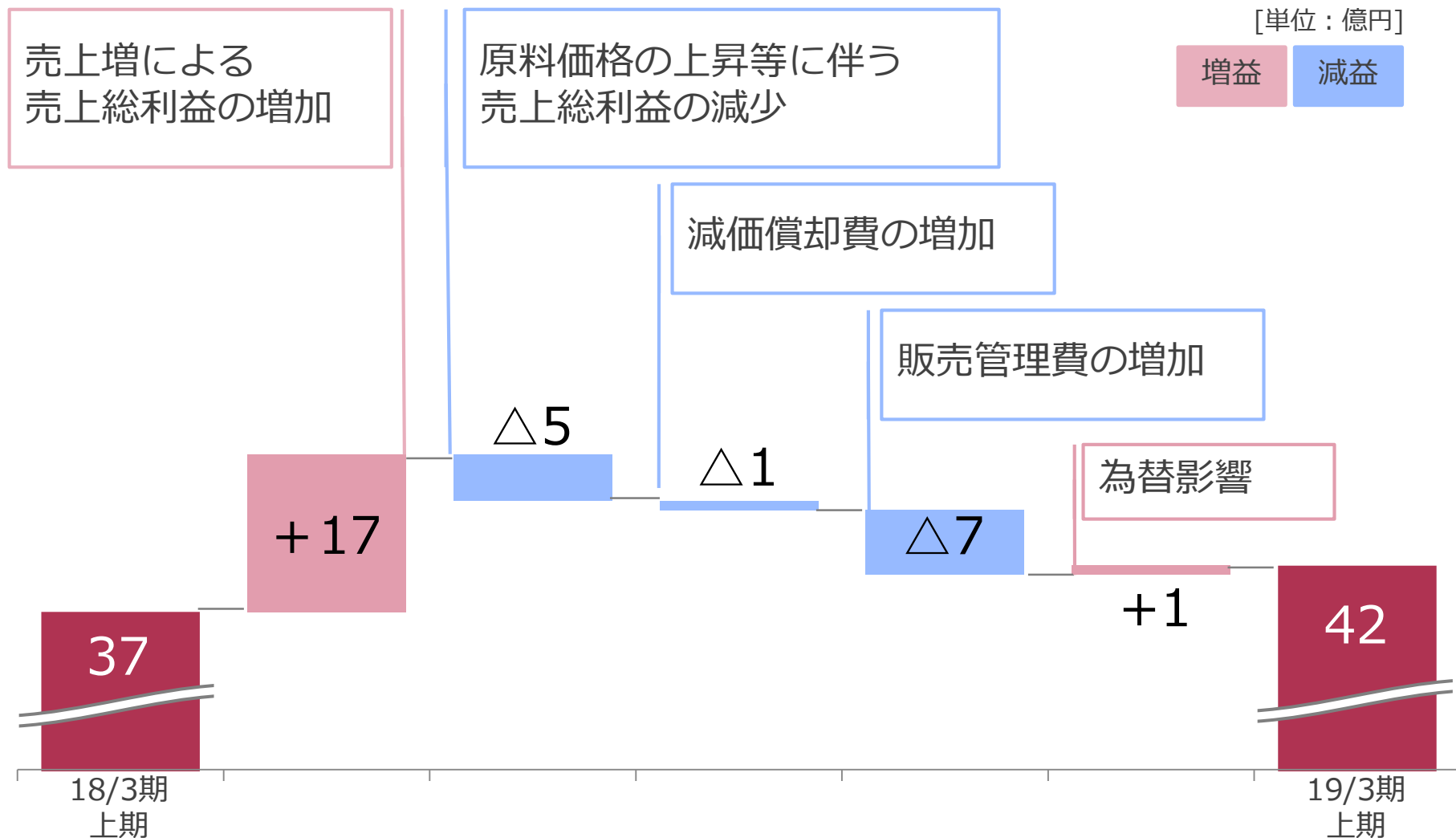
USD :	112円	109円	△3円
EUR :	122円	132円	10円

2019年3月期 上期実績 地域セグメント

[単位：億円]

	売上高				営業利益			
	2018/3 上期業績	2019/3 上期業績	前期比	為替影響 除く 前期比	2018/3 上期業績	2019/3 上期業績	前期比	為替影響 除く 前期比
日本	339	350	+3.3%	-	17	17	+1.0%	-
米州	162	162	+0.1%	+3.7%	3	1	△81.6%	△82.1%
欧州	105	135	+28.5%	+18.4%	7	13	+88.9%	+74.4%
アジア	110	123	11.7%	+12.0%	10	10	△1.2%	△0.4%
調整			-	-	1	3	-	-
合計	715	769	+7.5%	+7.1%	37	42	+15.4%	+13.5%

2019年3月期 上期業績 営業利益増減分析



Ⅱ. 2019年3月期 通期業績予想



■ 為替の前提

	2018/3	2019/3		
	通期実績	期初予想	上期実績	通期予想
U S D	112円	110円	109円	111円
E U R	127円	135円	132円	129円

■ 為替感応度（1円円安のケース）

◆ 売上高に対する影響

- USD = 約4.0億円増収
- EUR = 約2.3億円増収

◆ 営業利益に対する影響

- USD = 約13百万円増益
- EUR = 約 12百万円増益

2019年3月期 通期予想

[単位：億円]

	2018/3 通期業績	2019/3 通期予想	前期比
売上高	1416	1500	+5.9%
営業利益 営業利益率	64 4.5%	49 3.3%	△22.9% △1.2P
経常利益	67	51	△24.1%
当期純利益	70	42	△40.0%

期中平均為替レート

USD :	112円	111円	△1円
EUR :	127円	129円	+2円

※ 通期予想は、2018/3期決算発表（2018/5/15）公表時と変更ありません。

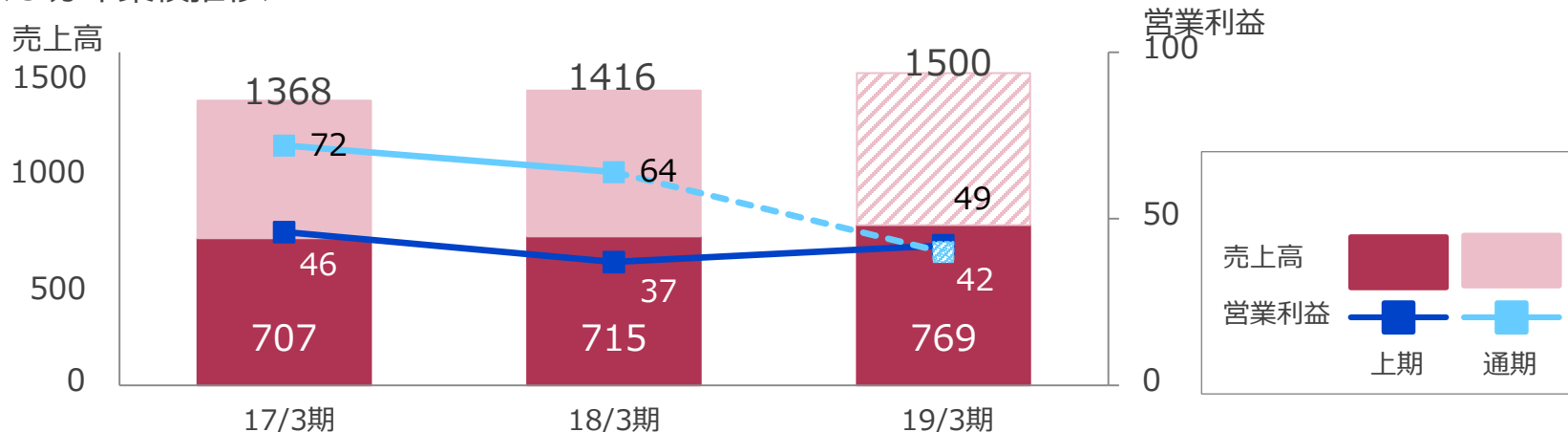
2019年3月期 通期予想

[単位：億円]

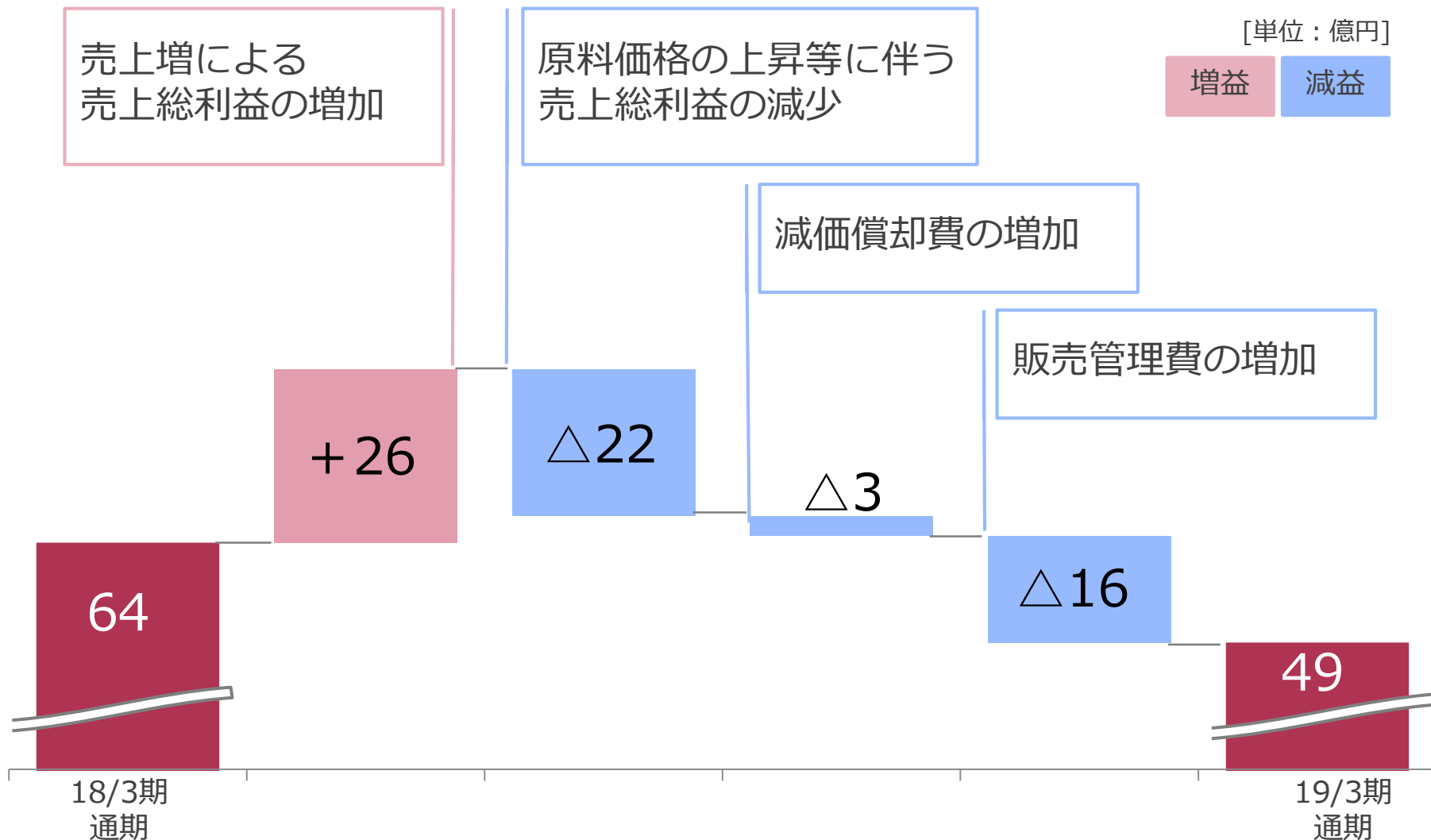
	2019/3 上期業績	通期予想に対する 達成率	2019/3 通期予想
売上高	769	51.3%	1500
営業利益	42	86.5%	49
経常利益	53	103.4%	51
当期純利益	42	101.0%	42

※ 通期予想は、2018/3期決算発表（2018/5/15）公表時と変更ありません。

<3カ年業績推移>



2019年3月期 通期予想 営業利益増減分析



2019年3月期 通期予想 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2018/3 実績	2019/3 予想
設備投資	64	76
減価償却費	58	61
研究開発費	121	126
売上高研究開発費率	8.6%	8.4%

2019/3 主要投資案件

[欧州]

ドイツ子会社にて

隣接地購入 3億円

[アジア]

インドネシア工場建設 15億円

(総工費31億円予定)

Ⅲ. トピックス





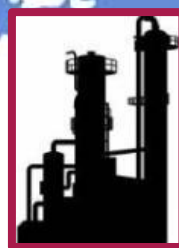
1 メンター



1. メントール

- ペパーミント油の主成分で最も需要の多い素材のひとつ
- ミントのような冷涼な香味と冷感効果を持つ

- SYMRISE
- BASF



 TAKASAGO

合成メントールを大規模に製造しているメーカーは
世界に3社のみ

1. メントール 高砂香料の持つメントール製造技術・特徴

- 当社は不斉合成技術を活用したl-メントールの工業化に世界で初めて成功
- 野依良治博士（当社社外取締役・2001年ノーベル化学賞受賞）が当社の不斉合成技術の発展に貢献
- 当社のl-メントールの特徴
 - ◆ 植物由来原料により、環境にやさしい
 - ◆ 不斉合成技術により、高品質かつ環境に配慮した製造を実現

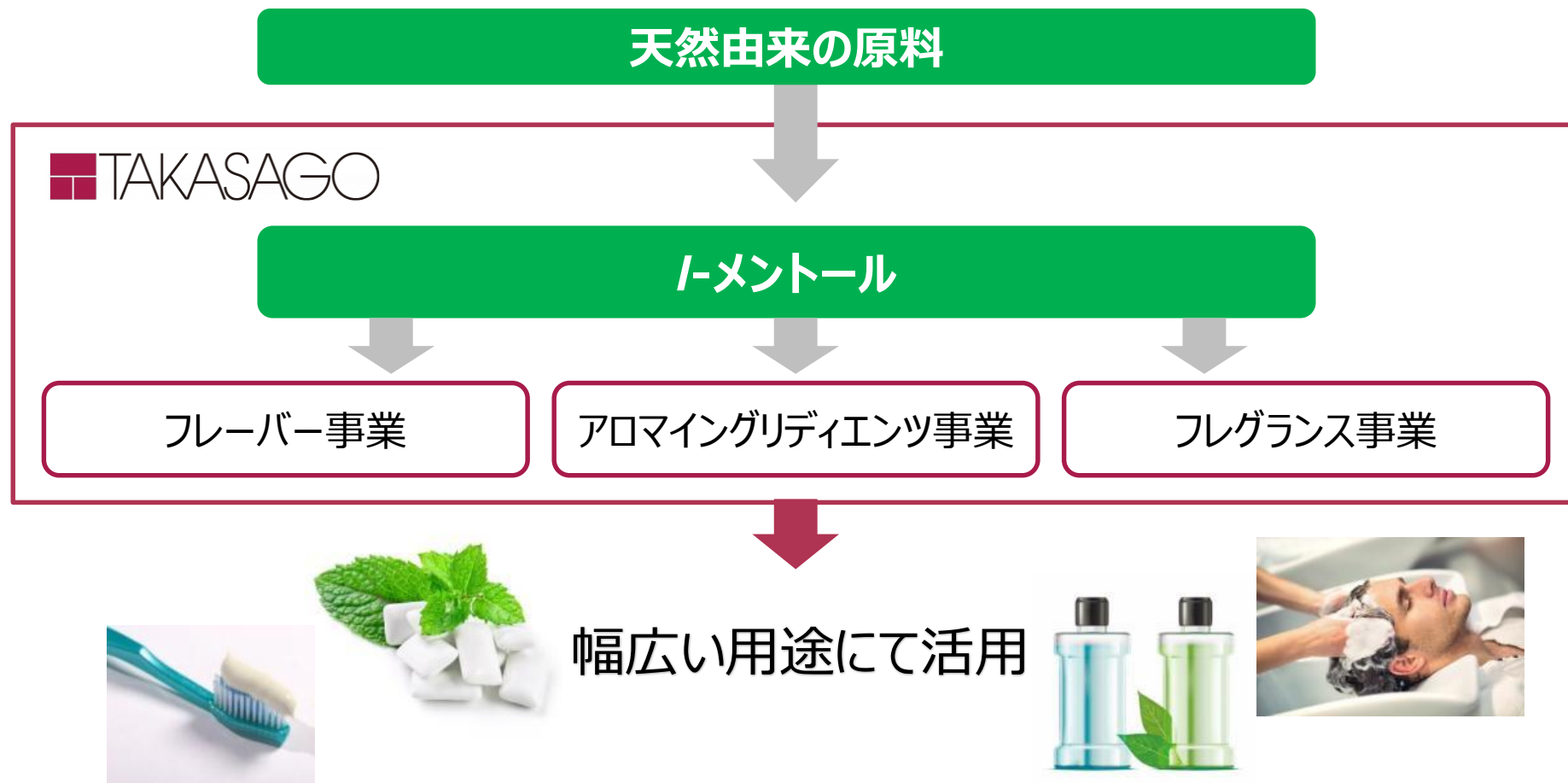
SUSTAINABLE SCENT

30th Anniversary of the Asymmetric l-Menthol Process



1. メントール 当社主要 3 部門で幅広く展開

- アロマイングリディエーツ事業での単品販売に加えて、フレーバー・フレグランス事業において調合香料に配合
- 幅広い用途：オーラルケア製品（歯磨き粉・マウスウォッシュ）、ガム・タブレット、シャンプー、制汗剤、湿布剤など



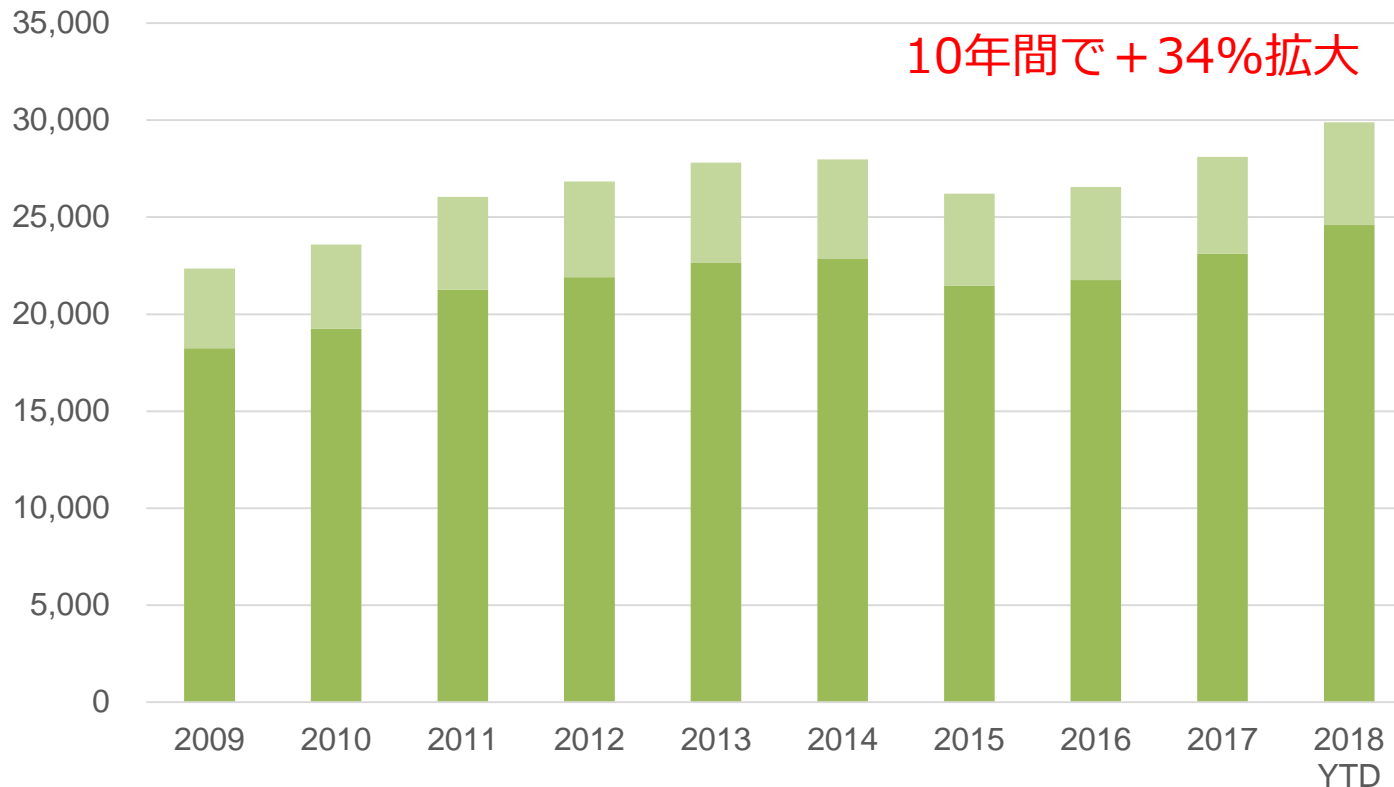
1. メントール 拡大するマーケット

- メントールの主要市場はオーラルケア製品
- 市場は拡大中



世界のオーラルケア製品の市場規模

(million USD)



■ 洗口液
■ 歯磨き粉

データ：ユーロモニター

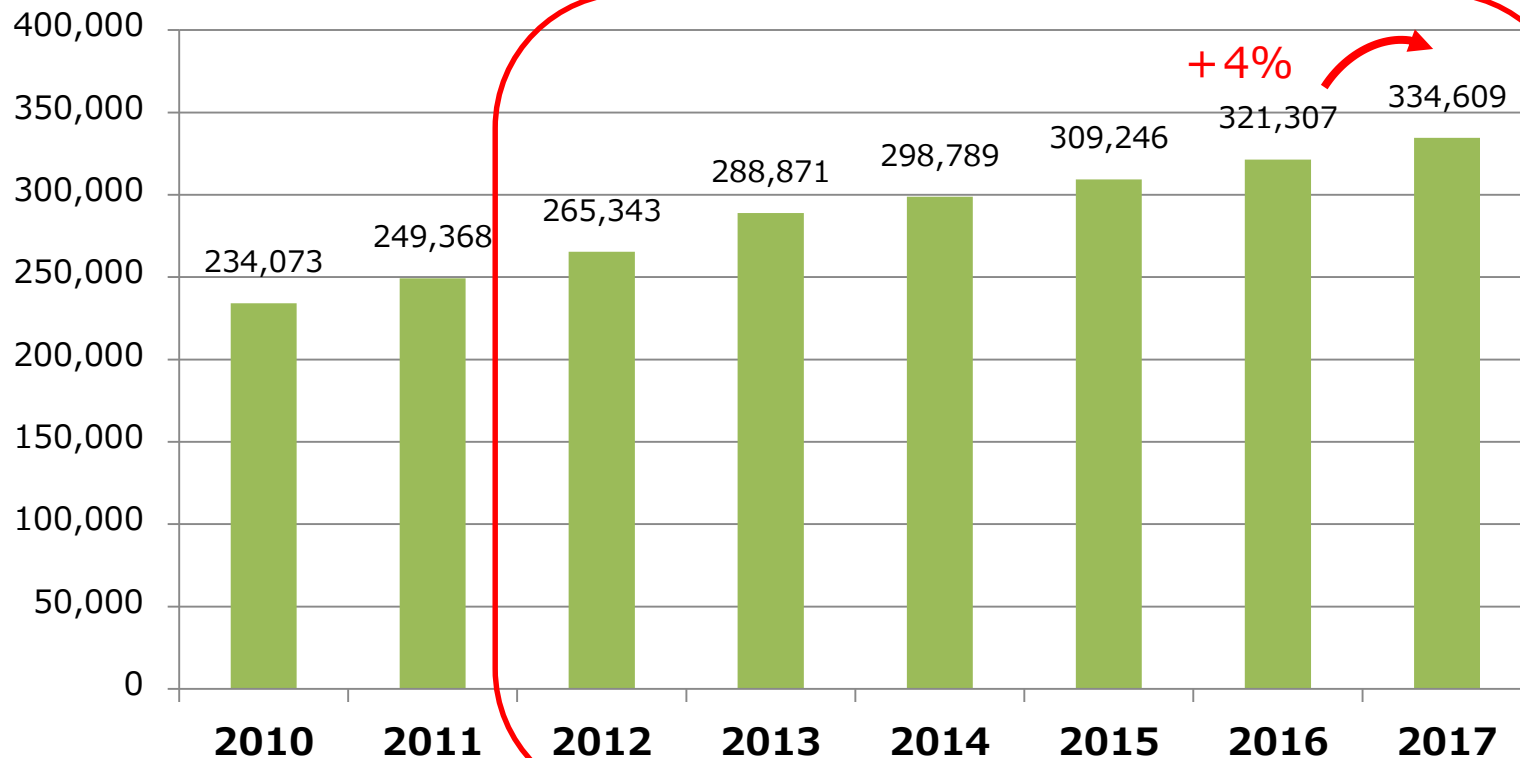
1. メンツール 新興国の需要増

- 新興国でのニーズ拡大が顕著
- 中間層の拡大が背景



中国での歯磨き粉マーケットの成長

(Sales vol. in Liter)



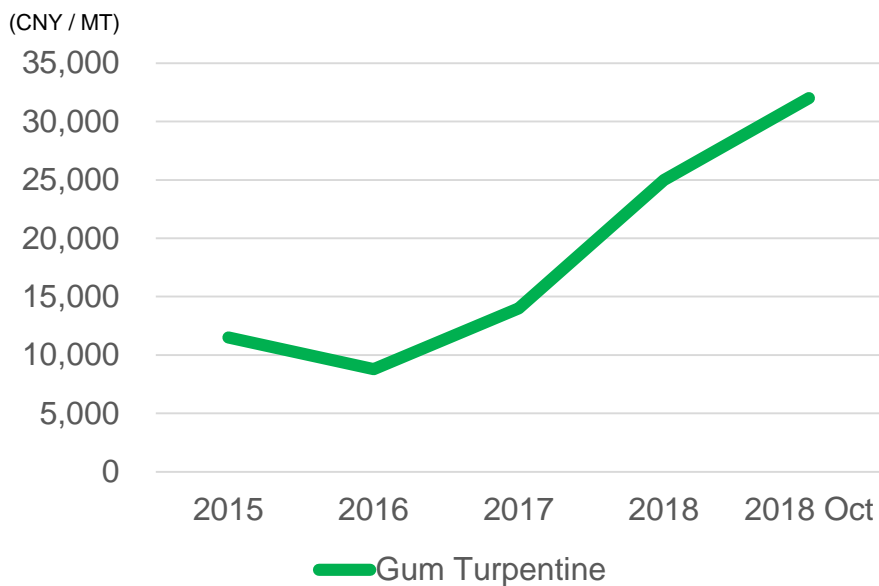
データ：ユーロモニター

1. メントール 原料価格の上昇

■ 供給サイドの状況

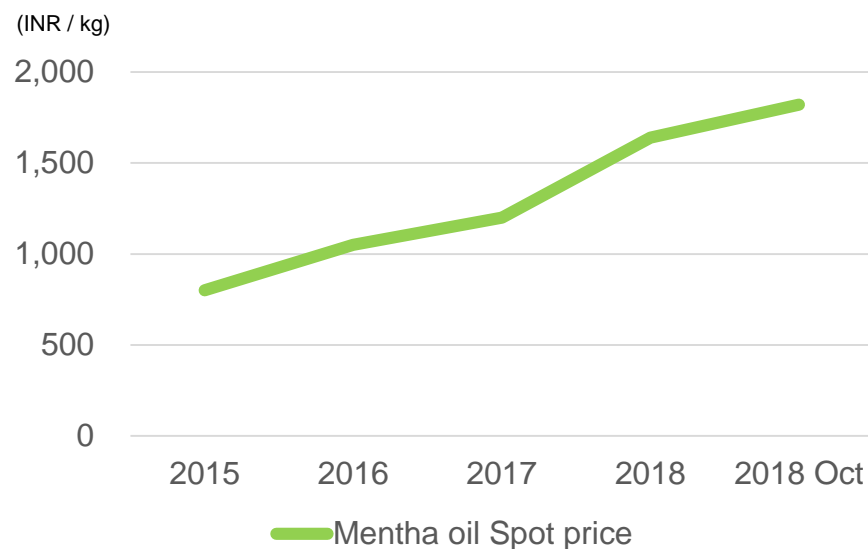
- ✓ 中国環境規制
- ✓ 元原料の供給量の減少
- ✓ 天然ミントの収穫量減少

当社/メントール原料（天然由来）



データ：China, Guangxi Sinoinfo IT

天然メントール原料（天然ミント由来）



データ：India, MCX index

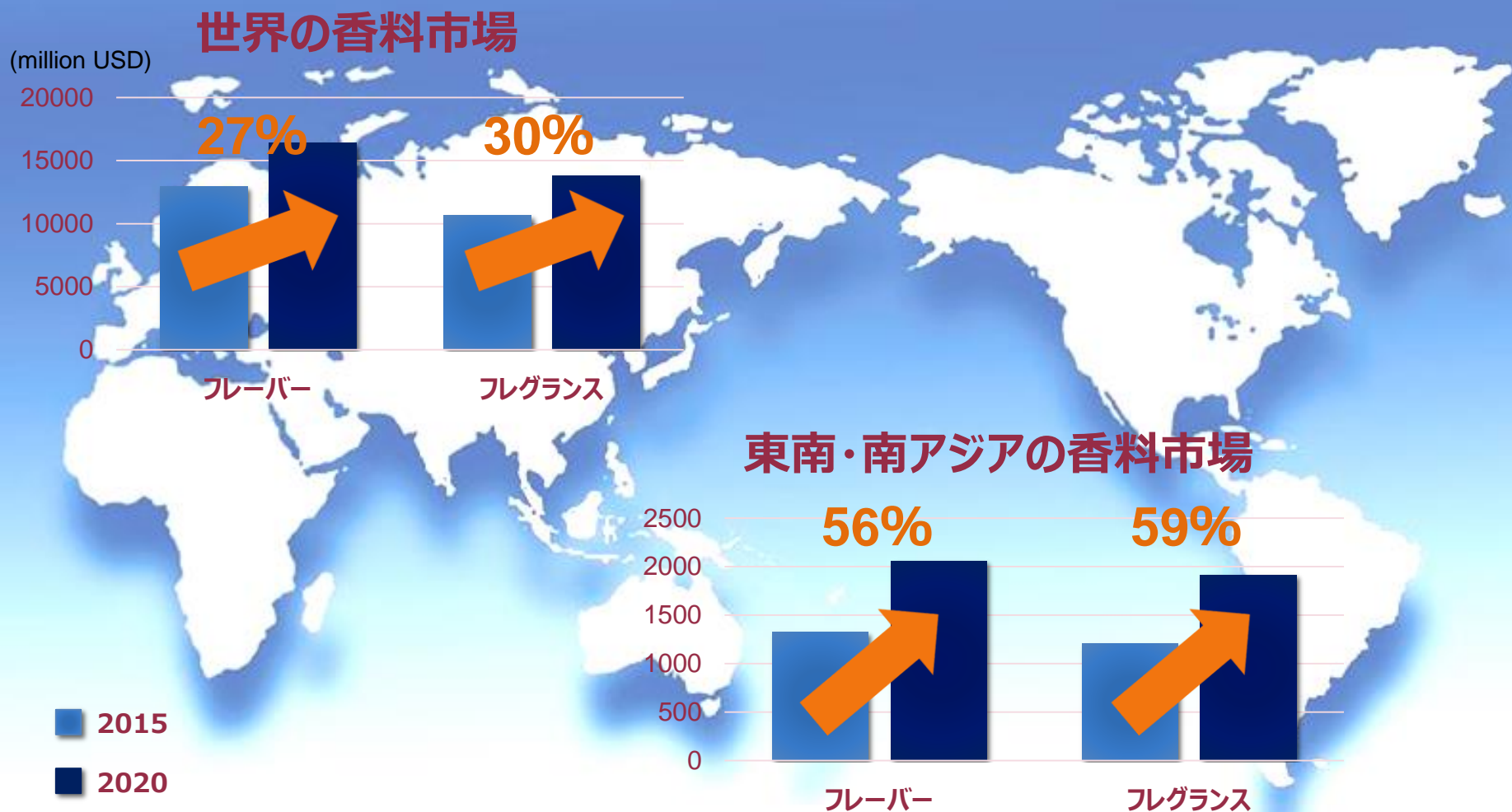
当社はフル稼働を継続することにより安定供給に努力

2 東南・南アジアでの事業展開



2. 東南・南アジアでの事業展開

■ アジアの成長市場に注目



データ：IAL

2. 東南・南アジアでの事業展開 主要3カ国の魅力

- シンガポール：地域中核拠点
- インド：アジア有数のマーケット規模
- インドネシア：一定のマーケット規模・ハラル対応のハブ

インド

- ・香料市場：USD19.6億ドル（2020年予測）
- ・人口規模（13.4億人）
- ・経済規模（世界第6位）
- ・周辺国展開（パキスタン・バングラデシュ・スリランカ）

シンガポール

- ・香料市場：0.5億ドル
- ・東南アジアのハブ拠点
- ・優れたビジネスインフラ環境

インドネシア

- ・香料市場：9.0億ドル
- ・人口規模（2.6億人）
- ・経済規模（世界第16位）
- ・ハラル対応の広域展開

2. 東南・南アジアでの事業展開 主要3拠点での展開状況

- シンガポールを地域ハブとして東南・南アジア8カ国に拠点設置
(シンガポール・フィリピン・タイ・ベトナム・ミャンマー・インドネシア・インド・パキスタン)

2014 新工場稼働

シンガポール

1986
研究所開設
1974-75
事務所開設
現地法人化



2017 新工場稼働

インド

2013
チェンナイ仮工場



2016 研究所・事務所

インドネシア

1994
事務所開設

1969
シトロネラ草の栽培開始



2018 工場建設開始



2019末 稼働予定

2. 東南・南アジアでの事業展開 インドネシアでのプレゼンス

■ 香料原料調達先

- ◆ 天然香料の宝庫として早くから注目
 - ◆ 天然香料原料確保のための投資
 - 1969年 シトロネラ草の栽培プロジェクト開始
 - 1981年 カシア油の採油事業開始
 - 1984年 パチュリ油の採油事業開始
- 栽培事業を継続

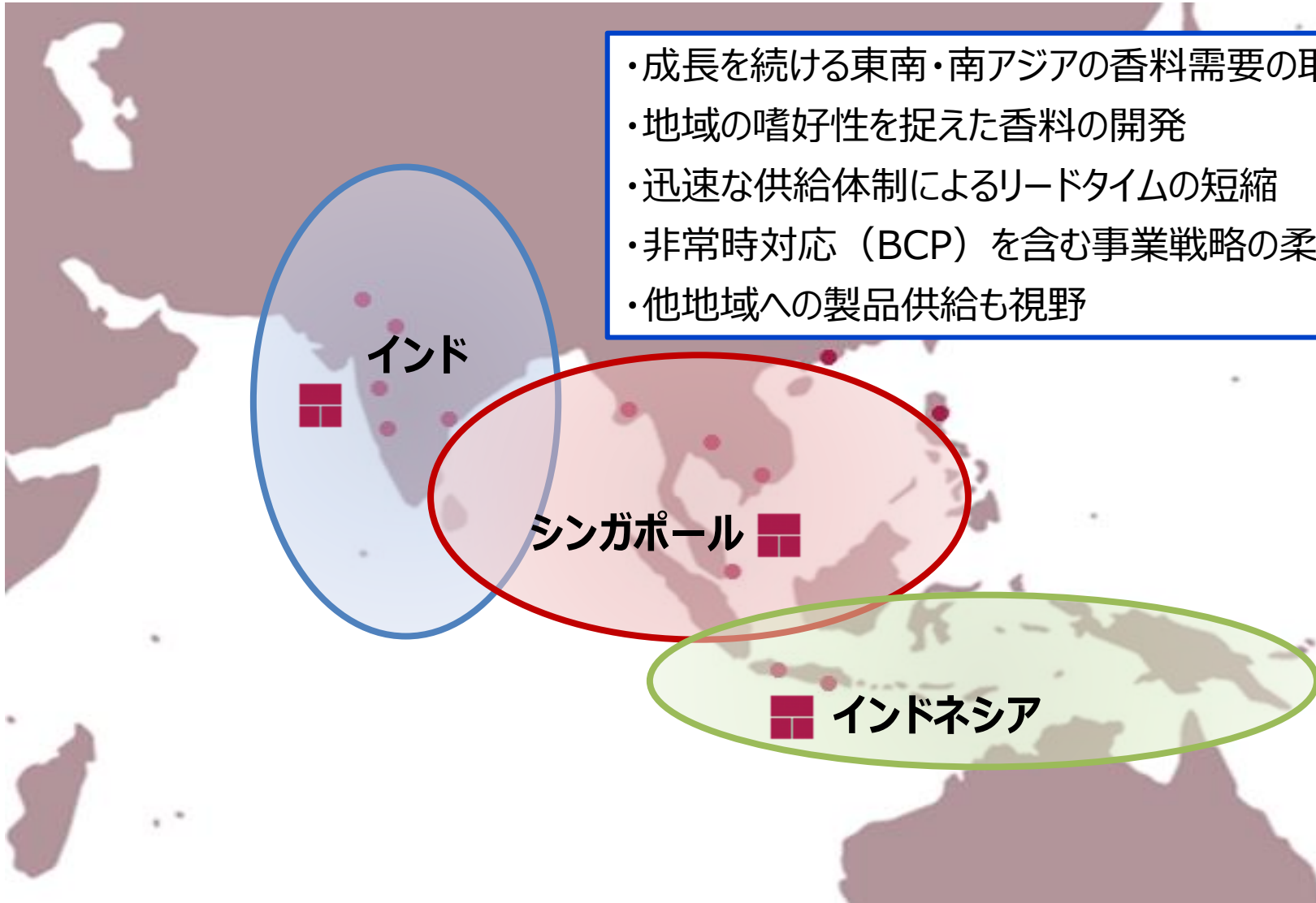
■ 販売マーケット

- ◆ 1990年代以降マーケットとして本格取り組み
 - ◆ シンガポールで製造した香料を輸入販売
- 旺盛な現地ニーズへの迅速な対応が課題に

2. 東南・南アジアでの事業展開 地域ネットワーク

■ インドネシアの新工場稼動により、3極生産体制を構築

- ・成長を続ける東南・南アジアの香料需要の取り込み
- ・地域の嗜好性を捉えた香料の開発
- ・迅速な供給体制によるリードタイムの短縮
- ・非常時対応（BCP）を含む事業戦略の柔軟性確保
- ・他地域への製品供給も視野



本日は、ありがとうございました。



※注意事項

本資料は、2018年11月19日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：IR/広報室

TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512

<http://www.takasago.com>

E-mail: ir@takasago.com

